



Lend a Hand
手を貸そう

国際ロータリー第2620地区

Weekly Report

御殿場ロータリークラブ週報

第1835回
例会プログラム
2004.3.11
No. 36



例会場 / 東山荘・講堂

開会点鐘 / 12:30

ロータリーソング / 奉仕の理想

内容 / 新会員卓話
狩野 住夫君

会員慶事

誕生日

3月14日 内海 宣彦君

3月15日 勝又 敏雄君

3月15日 神谷 高義君

結婚記念日

3月12日 勝間田芳麿君・喜代子様ご夫妻

3月17日 大森 清治君恵美子様ご夫妻

夫人誕生日

3月11日 石田 恩君ご夫人 真澄様

連続出席

3月 7日 小早川豊一君(13年間)

3月11日 秋田 悦夫君(5年間)



会長 水口 正宏

『石(いわ)ばしる 垂水の上の
さわらびの 萌えいづる春に なりにけるかも(志
貴皇子)』

早春の3月、旧暦弥生は草木が益々盛んに生
い茂る月。「弥生の空は見渡す限り・・・」の
季節はまだ少し先ですが、弥生・3月というだけ
で何だか華やいだ気分になります。3月1日には、
勝間田芳麿先生の御殿場西高校の卒業式に招か
れて出席してまいりましたが、巣立ち行く若人
たちの姿は、人生の弥生(いやおい) 茂る姿そ
のものでした。

古代日本の歴史を区切る一つに「弥生時代」
があります。明治の始めに、本郷弥生町の遺跡
から縄文土器よりも高い温度で焼かれた土器が
出土したことから命名されたようですが、同時

にこの時代に稲作が定着したことを考え合わせると、
「弥生」という言葉のイメージの連想として、目の
前に稲田が滔々と広がってくるから不思議です。

さて、本日のゲストスピーカーの中田幸次郎様から、
後ほど「紙パルプ産業の現状」についてのお話を伺
いますが、紙の文化の恩恵に浴している我々日本人
としては、紙パルプ=森林を連想します。天気続
きでも川の水が枯れないのは、森の木々と落ち葉の
堆積した表土とが雨水を受け止めて一旦蓄える。水
はジワジワと地下へ浸透し、時間を掛けて再び地表
へと滲み出てくる。この緩やかな過程があるからこそ、
川はいつも川であり続ける。木材を生産する森林の
もう一つの働きです。

ある専門家の計算によれば、木材生産・水源涵養・
水害防止・保健休養などの森林の価値を金額換算す
ると、何と31兆円にもなるそうです。それなのに、
私たちの命の水と紙の源である森林は、いま見捨て
られ、酸性雨に痛めつけられているようです。

次世代のための課題として、共に考えましょう。

さらりとした
ロータリーライフを

次回3月18日の例会

1836回 12:30点鐘 東山荘・講堂

紙パルプ産業の現状と課題

富士テクノサポート代表
中田幸次郎様



1. 製紙産業の概要

紙の生産量は文化のパロメーターであり、GDP（国内総生産）成長率と連動していて、これまでは右肩上がりに成長してきた。2000年の紙の年間生産量は3,190万トンであり、これは日本人一人当たりで年間240kgを使用している計算である。

その後は日本全体の不況とも関連してマイナス成長であり、今後の成長も予断を許さない状況である。コンピューターやパソコンの発達と共にペーパーレス時代が来るかと思われたが、現在でもゴミ総量の約半分が紙であり、現実には沢山の量が使われている。

2. 資源問題

製紙産業は資源の安定確保を目指して、積極的に植林、特にオーストラリア・チリ・南アフリカ・中国などの海外での植林に取り組んでいる。樹種は約8年でパルプ用材として伐採可能で、パルプ化適性も優れているユーカリの木である。つまり8年分の土地があれば、一年ずつ切って、その後に植林していけばリサイクルが可能である。実際にこのようなツリーファームが南米などでスタートしている。

近年日本企業では、商社・出版社・電力会社・自動車メーカーなどが炭酸ガス排出取引や企業イメージアップの為に植林事業に参画してきている。

3. 古紙利用率目標と今後の課題

1995年、「資源有効利用促進法」に基づいてスタートした「リサイクル56計画」は、古紙利用率56%を2000年度末に達成することを目標としたが、1999年度で56.3%となり、現在では約60%に達していて、古紙回収率も60%である。

目標達成の要因は、

環境問題に対する配慮から、古紙利用製品へのニーズが高まった。

市民・行政・企業の環境問題に対する意識高揚により、古紙回収が増加した。

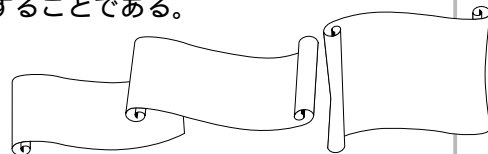
規制緩和や企業努力により、物流費が低下した。目標策定時と比べて、古紙価格が大幅に下落した。

製紙会社の環境問題に対する積極的な取り組みの成果が現れた。

古紙処理技術の進歩により、古紙パルプの高配合が可能になったこと。

などである。

今後の課題は、持続可能な循環型社会を構築する為に、行政・業界・団体・消費者が自己責任を果たすだけでなく、お互いに協力して効率化・コストミニマム化を追求することである。



3月4日の出席報告

会員数	計算に用いる 会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の 確定出席率
61名	58名	51名	87.93%	100.00%

欠席者(7名)

井口修一君・滝口喜徳君・神谷高義君・戸栗太平君
勝間田太住君・芹澤正明君・小早川豊一君

やむを得ず欠席される方は、午前10時までにご連絡下さい。

メーキャップ 大森 清治君 2月24日 沼津北
(3名) 勝間田豪亮君 2月29日 米 山
菅沼 久君 3月 3日 G R A



☺3月4日のスマイル

また参加させて頂きました。長泉RC / 石垣泰弘様

55回目の誕生日を迎えられ、感謝します。今や、祝って下さるのはロータリーだけです。石田 恩君
先週の親睦活動委員会には、会長・副会長に出席いただきありがとうございました。親睦活動委員会

第2620地区

御殿場ロータリークラブ

例会日/木曜日
例会場・事務局/YMCA東山荘
静岡県御殿場市東山1052
電話/0550-83-1133 FAX/0550-83-1138
<http://www.gotemba-rc.gr.jp/>

会 長/水口 正宏
幹 事/梶原 一正
会報委員長/勝又 誠

